

3歳児前期（4月～10月頃）

ねらい

- ◆ 園生活や保育者、友達に慣れ親しんで安心して過ごす。
- ◆ 生活や遊びの中で必要な、簡単な決まりが分かる。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活する。
- ・自分でしたい遊びを見付け、安心して遊びを楽しむ。
- ・したいこと、してほしいこと、思ったことなどを自分なりの言葉や表現で、保育者に伝えようとする。
- ・園の様々な行事に参加して楽しさを感じる。
- ・自分の思いを表情や言動で表し、相手にも思いがあることを感じる。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・保育者に親しみをもち、挨拶をしたり返事をしたりする。
- ・園生活に必要な身の回りのことを、自分なりにやってみようとする。
- ・手洗いやうがいの仕方、衣服の着脱、排せつの手順などを知り、保育者に促されてやってみようとする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・避難訓練があることや道路の歩き方などを知り、保育者とともに行動しようとする。
- ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールを知る。
- ・保育者に声を掛けられて、一緒に遊具を片付けたり、大切にすることを知ったりする。
- ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
- ・「入れて」「貸して」など、遊びに必要な言葉を知り、使おうとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 幼児一人ひとりのありのままの姿を受け止め、幼児が保育者に安心感をもてるようにする。
- 名前を呼ぶ、挨拶をするなど、一人ひとりに温かく声を掛けたりスキンシップを図ったりする。
- 一人ひとりの思いを受け止めながら、徐々に相手の思いも伝え、自分とは違う思いがあることを感じられるようにする。
- 危険なことやよくないことは、分かりやすく端的に伝える。
- 表示を活用し、順番や交代などが分かるようにする。
- 約束やルールを守っている姿を、言葉に出して具体的に認める。
- 片付けや所持品の始末など、幼児が理解し取り組みやすいように収納場所や表示を工夫し、自分でできたと感じられるようにする。
- 日常生活の中で、人や物への関わり方を保育者がモデルとして示し、幼児と一緒に行動して身に付けさせていく。



家庭とともに

- 進級や入園に伴う保護者の不安な気持ちを受け止め、園での幼児の様子を具体的に伝え、保護者が安心感をもてるようにする。
- 集団生活の中で、思い通りにならない経験から学ぶことの大切さを伝え、理解を図る。
- 幼児が身の回りのことを自分の力でやろうとしている姿を伝える。その際、時間的な余裕をもつことや励まし方など、自分でできる喜びを味わわせるために園で行っている具体的な接し方を伝える。
- 危険なことやよくないことは、幼児に分かりやすい伝え方（言葉、表情、理由を添えることなど）できちんと教えていることを具体的に話し、家庭での接し方の参考となるようにする。
- 幼児が扱いやすい物を保護者が整えられるように具体的に知らせる。
- 基本的な生活習慣を身に付けるための園での取組を伝え、家庭とともに生活リズムの安定を図れるようにする。

自分の力で頑張っていることを応援しましょう ～保育参観を通して～

【目的】 幼児の身支度などを参観する機会を設定し、自分で頑張ろうとしている姿を見ることを通して、幼児にとって扱いやすい物や取り組みやすい環境を保護者に知らせる。

【内容】

- 1 朝の身支度の時間を参観できるように設定する。
- 2 幼児が自分で身支度をする様子を、手伝わずに見守ってもらう。
- 3 家庭で参考にできるように、掲示等を工夫する。
 - ・自分でできるようにするための環境等の工夫をまとめた、プリントや掲示物
 - ・扱いやすい物（タオルのループ、コップ袋や上履き袋の入れ口、通園鞆、着替え、外靴など）のポイントや、実物の展示 など
- 4 身支度にかかる時間や方法は個人差が大きいので、できるかどうかの結果ではなく、どのように取り組んでいるかに着目できるようにし、その幼児が頑張っていることを伝える。可能であれば、少人数で参観できるような工夫をする。

こどものつばやき

「おかあさん、すぐくるよ」

入園してから3週間、お母さんと離れるのが寂しくて毎日泣いて過ごしていたaちゃんが、泣かずに登園するようになりました。その翌日のこと。玄関で泣いているbちゃんの様子をじっと見つめ、「おかあさん、すぐくるよ。」と話し掛けていました。

自分も同じだったからこそbちゃんに共感し、寂しさを乗り越えたaちゃんならではの、心のこもった言葉です。



あんな場面 こんな場面 (指導例)

一人ひとりの楽しみ方で

3歳児4月

保育者と5、6人の幼児が砂場で遊んでいます。A児「プリン作っているの。先生、食べて。」「おいしそう。いただきます。」などと保育者とのやり取りがあります。また、B児は「チョコレートできたよ。」C児は「これ、ケーキなの。」と思いついたことを口にしながら、それぞれに遊んでいます。

保育者は、幼児の様子を受け止めて、ケーキ屋さんならみんなと一緒に遊べると考えました。そこで、「みんなでケーキ屋さんにしようよ。」と提案すると、D児は「え?」と少し困ったような表情をしました。



ここがポイント!

- 一人ひとりの気持ちに寄り添い、それぞれの楽しみ方で十分に遊べるようにしましょう。

「冷たくて気持ちがいいね。」

改めて、D児の様子をよく観察してみると、砂と水を順番に混ぜて、手でその表面をぺちゃぺちゃとたたいて遊んでいました。D児は自分なりの楽しみ方を見付けていたようです。そのことに気付いた保育者は、「冷たくて気持ちがいいね。」と、声を掛けました。すると、D児はにっこりしながら「うん。」と答え、遊びを続けました。

他の幼児も保育者が提案した「ケーキ屋さん」にはならず、自分なりの遊び方で砂場で遊びました。保育者は、それぞれの楽しみ方に応じて関わりました。

〈他にもこんな姿が…〉

- プリンを作っていたA児、チョコレートを作っていたB児は、その後も保育者とのやり取りを繰り返し楽しみました。
- ケーキを作っていたC児は、型抜きをすることが楽しい様子で、何度も繰り返し、たくさん作っていました。

- 自分の思いが十分に受け止められ、安心して遊ぶことが、自己発揮や自信の基盤になります。

クラスで近くの公園に散歩に出掛けるときのことです。保育者が「真っすぐ並んでね。」と声を掛けたり、手を引いて列を整えたりしようと思いますが、幼児はすぐに広がってしまいます。

横を向いたまま歩いたり、急に立ち止まったりして危ないため、保育者は必死になって、「ちゃんと並んで。」と、幼児に呼びかけています。

ここがポイント！

- 幼児にとって分かりやすく、思わずやってみたくなる援助を工夫しましょう。

「運転手さんになって、歩けるかな。」

保育者が何度列を整えても、幼児たちは同じことを繰り返すばかりです。

そこで、「きりん組の電車が発車しますよ。」「運転手さんになって歩けるかな。」と、声を掛けました。列からはみ出しそうになる幼児には、「あ！脱線しちゃうよ。運転手さん、気を付けて。」と、すかさず声を掛けるようにしました。

幼児たちは、運転手になって線路を進んでいる気分になり、前の幼児の後をしっかりとついて歩き、安全に道の端を歩くことができました。



〈他にもこんな言葉掛けが…〉

- うがいや手洗いをするとき…『バイキンと、ばいばいしたかな』
- ボタンをかけるときに…『ボタンの頭が出てきたかな』
- 片付けのときに…『お家に帰らせてあげようね』 など

- 自分で上手に行動できたことの積み重ねを通して、生活や遊びの中で必要な決まりが身に付いていきます。